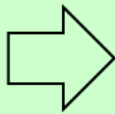


## 高収益に向けた園芸作物の導入と省力化の取組

～ 農事組合法人 米沢あすなろ ～

### 経営体の概要

法人化前：平成28年度  
 基幹作物：水稲  
 経営面積：自作地10.0ha、借地5.0ha



現在：令和2年度

基幹作物：水稲15.0ha、大豆5.1ha  
 えだまめ1.6ha、きゅうり0.2ha  
 経営面積：自作地3.0ha、借地15.5ha、  
 作業受託3.4ha

### 取組の経緯と経営転換のポイント等

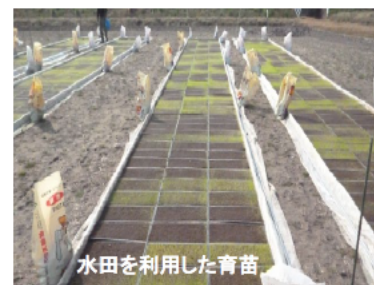
本法人は、平成12年に大豆生産組合を立ち上げ、平成19年に農用地利用組合を設立。組合員となる農業者の調整等を経て、平成29年に法人を設立している。

国営事業で用水が安定供給され水管理作業の軽減が図られたが、水稲だけでは経営が難しいことから法人の設立を契機に、大豆（作業受託を含む）や高収益作物であるえだまめ、きゅうりを組み合わせた営農を行っている。また、農作業の省力化・効率化を図るため、水稲苗の水田育苗を行うとともに、えだまめの作期をずらした作業計画・作業機械利用に取り組んでいる。

### 営農改善のポイント

#### ① 経営規模の拡大

ほ場整備事業や国営事業の実施により、整備された生産基盤を活用し、安定した水稲の栽培が可能となった。法人化により経営面積を15haから22haに拡大し、大豆の作業受託、えだまめ、きゅうりの栽培に取り組んでいる。



#### ② 省力化

法人では、水稲の育苗を水田で行う「育苗の露地化」を実践している。軽トラでほ場まで入れることから作業がしやすく、作業時間を短縮している。また、育苗跡地は水稲を作付している。

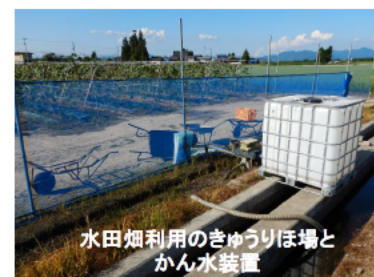
えだまめでは、「ゆかたむすめ」、「ひでん」など4品種を作付けし、作期をずらして計画的な作業や機械利用を行っている。

水田畑利用で栽培しているきゅうりは、用水路から水をくみ上げ、かん水装置により適期のかん水や追肥（液肥）を行っている。



#### ③ 機械・施設の整備

法人では、水稲の作付拡大や大豆やえだまめの導入にともない、JAの共同乾燥利用施設や選果場の利用から、適期での収穫、法人での出荷調整等、農産物の品質管理を行うため乾燥機や色彩選別機等を整備している。



### 事業概要

事業種：国営かんがい排水事業  
 関係市：米沢市、南陽市、高畠町、川西町  
 受益面積：8,804ha  
 事業期間：平成18年度～平成27年度  
 事業目的：用水改良  
 主要工事：貯水池2箇所、頭首工6箇所、揚水機場2箇所  
 用水路13路線、用水管理施設、発電施設

位置図（山形県）



米沢平野二期

<問い合わせ先>

東北農政局  
 農村振興部農地整備課  
 電話：022-263-1111  
 （内線4460）

（令和2年度調査時点）